

# 港南の歴史を探る先駆者と遺宝

伊藤 武

現在の港南区の基盤を創ったのは、本書に掲げる凡そ7家で、今を遡ること約820年から620年・鎌倉時代から室町時代にかけてこの地に居を構えたものと言われています。勿論それ以前縄文・弥生・古墳時代にも人の生活がありました。本書の記載の7家は、著者の勝手な選択ですが、港南区に現存する文献や伝承及び区内全般に跨ることを考慮して、これを基に選んだものであります。港南区の北部、最戸・港南・大久保は笠原家、東部の上大岡は山野井家、南北に連なる大岡川沿いには北見家、南部の笹下地域は間宮家、中央の高地の野庭には臼居家、そして庶民の氏神・神社の神家は松本家である。往古はこれらの大家が里正・名主を努め領主との関わりを果たしていました。

そしてこれらの7家には、先祖伝来の家宝とも或は古くから存立した社寺には社宝・寺宝とも言われる遺宝があり、大家や領民の日常生活の支えとなっていました。本書はこれらを所蔵される方々の協力により、日頃目に触れることの少ない港南の宝を一般に紹介し、郷里港南の原点の認識を深めて頂くことを願うものであります。

○本文 I部 先駆者の事績 73 ページ、 II部 遺法 62 ページ 写真 オールカラー

I部 1 御園王(生)五輪塔と笠原家、 2 千葉介家系と臼居左右衛門家、 3 間宮家系と間宮家、 4 北見掃部と北見家、

5 殿屋敷と大津家 6 御霊社と山野井家、 7 権現堂と松本家

II部 1 初詣り、2 祭祀舞・朝日舞、 3 聖徳太子束帯像、 4 十一面観音像、 5 阿弥陀如来立像、6 地藏菩薩立像、7 座禅と七草粥、

8 どんと祭、9 春日神社彫刻、 10 節分豆撒きと囃子舞、 11 県立慰霊堂献灯会、 12 関古式囃子、13 実語教往来物、14 勝海舟書、

15 石川素堂禅師書、 16 百万遍念仏、 17 薬師如来坐像、 18 3月節句雛祭り、 19 岡本橋と旧鎌倉街道、 20 新道開拓碑、

21 洞雲閣先生筆塚、22 源為朝之廟社、23 夏越し大祓い、24 十一面観音像、25 如意輪観音像、26 権現堂本尊不動明王、27 大般若波羅蜜多經、

28 円覚慈雲書と瑞宝章、 29 大黒柱変身不動尊、 30 市立南高通り桜並木と渡邊与七、 31 松ヶ崎遺跡横穴古墳、 32 桜祭と柴灯護摩修法、

33 永谷天神江戸出開帳、 34 鋒立 港南区大久保町会、 参考文献 先駆者家名・遺宝提供者及び取材協力者 裏表紙(先駆者家家紋)